



心理職

【採用】
令和3年度 経験者1級職(児童心理)
【所属】
荒川区子ども家庭総合センター
児童心理係
【前職】
地方公務員(都道府県) 10年勤務

Q1. 転職しようと思った理由やきっかけについて教えてください。

児童福祉法の改正をもとに、荒川区は先行区として児童相談所を開設していました。児童相談所が関わるご家庭は、児童相談所の支援だけではなく、子どもの所属先や家庭に関わる行政機関などの支援が不可欠であると感じています。基礎自治体である特別区に児童相談所ができることで組織間の連携がより迅速になり、手厚い支援の提供ができると考え、特別区への転職を考えました。

Q2. 特別区(荒川区)を志望した理由を教えてください。

荒川区は、特別区の中でも面積が小さいところが魅力的でした。児童虐待においては、発生からの介入だけではなく、予防的な観点も大変重要であるため、大きなことが起きる前になにかあれば駆け付けられるようなコンパクトなつくりは荒川区の強みだと感じています。

Q3. 前職はどのような仕事をしていましたか。

また、前職との違いはありますか。

前職も他自治体の児童相談所の児童心理司として働いていました。現在も児童心理司として働いているため職務内容に大きな違いはないですが、地域性は違うため地域の歴史や特色、文化など把握できるように努めています。

Q4. 今の仕事内容を教えてください。

また、今の仕事のやりがいや魅力を教えてください。

現在は、子ども家庭総合センター(児童相談所)で児童心理司の職に従事しています。社会的な問題とされている児童虐待だけではなく養育に困られている家庭への支援など、相談は多岐に渡ります。

児童心理司は主に子どもとの面接や、保護者に子どもの状態を伝えるなど、子ども側に寄り添って支援をすることが多いと思います。ただ、お会いする保護者のかたも一生懸命子育てさ

れて悩まれている方がほとんどです。子どもの立場に立つことも大事ですが、まずは目の前にいる家族を支援することを念頭に置いて業務に従事しています。

Q5. 入区後に前職の経験や知識が生きた場面があれば教えてください。

前職でも同じ内容の仕事をしていたため、子どものアセスメントなど児童心理司としての業務においてはこれまでの経験が大いに活かしていると思います。若い職員の方も多いため、少しでも自分の経験が活かせるように困っている職員の方がいたら積極的に声をかけ問題解決に向けて一緒に考えるようにしています。

Q6. 職場はどのような雰囲気ですか。

若い職員が多く、活気溢れる職場だと思います。また、気軽に周囲に相談できるような風通しの良い雰囲気を感じています。私自身、入区した時にはわからないことだらけでしたが、声をかけてもらうだけでなく、業務を手伝ってもらうことや、丁寧に教えていただき、今振り返っても感謝の気持ちでいっぱいになります。

Q7. 荒川区に入ってよかったことを教えてください。

荒川区は、再開発している地域もありますが、下町情緒が残っている街並みも多いです。区内移動は自転車を使用しますが、路地が多いため町中を探検している気分になり、業務に追われている時でもどことなく穏やかな気持ちになります。

Q8. 休日や退庁後の過ごし方について教えてください。

健康維持のため休日はランニングなど体を動かすようにしています。また、業務の中では緊張感を伴う場面に遭遇することもあるため、体だけでなくメンタル面でも不調を起こさないように、十分な睡眠を取るよう心がけています。

Q9. 経験者採用での就職を考えている方にメッセージをお願いします。

私自身、経験者採用を受けようと思った時には、新しいことにチャレンジしたい気持ちと新たな環境に身を投じることへの不安を感じていました。最初はわからないことだらけで不安を抱えていましたが、周りの方に支えられてきたことで乗り越えられてきたと思います。

荒川区は経験者採用の職員も多く、サポートする環境もあるため、入区後のことは心配せず頑張ってください。皆様のご経験されたことを教えていただきながら、荒川区のために一緒に働けることを楽しみにしています。